

いもう 葦毛通信



チョウトンボ

令和2年8月24日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 98

1、輸入ミスゴケに含まれる種子

葦毛湿原で大量に投げ込まれたサギソウ球根を除去し、豊橋市文化財センター等でプランター等に蒔いて経過観察を行いました。この時に土の代わりにミスゴケを用い、その中に球根を蒔き出しましたが、葦毛湿原産、ニュージーランド産、中国産のミスゴケを使用した結果、サギソウ以外で発芽した植物に大きな違いが見られました。今回の実験は意図的に行ったわけではありませんが、結果的に、ミスゴケに含まれている埋土種子の違いについて興味深い結果が得られました。

1) 葦毛湿原産ミスゴケ

プランターにミスゴケを入れ、そこにサギソウの球根を蒔き出し豊橋市文化財センターの水屋の窓際に置いて観察を続けました。ミスゴケは葦毛湿原の植生回復作業で除去したものを使用しました。乾燥させていない生のミスゴケです。

葦毛湿原産のミスゴケからは下写真のように種名不明の2種類の植物が発芽しました。不明植物1は平たく細長い葉が伸びていますが種名は分かりません。不明植物2は細長い糸状の葉が伸びていますが、やはり種名は分かりません。この2種に関しては在来種の可能性が高いと思われます。



葦毛湿原産ミスゴケ (2020年8月12日)



不明植物1



不明植物2 (2020年7月20日)

2) ニュージーランド産ミスゴケ

豊橋市文化財センターの職員が自宅で植木鉢に入れてサギソウの球根を蒔き出しました（右写真）。この時に使用したのがニュージーランド産の乾燥ミスゴケでAAAクラスのものでした。

蒔き出したサギソウは植物ウイルスに罹患していたようで、97号で紹介した様に葉が縮れたり変形したのが見られました（中段写真）。

下段写真はニュージーランド産ミスゴケから発芽した植物で0.5～1cmほどの丸い葉が出ています。いずれも種名は分かりませんが、外来種である可能性があります。



ニュージーランド産ミスゴケ (2020年7月13日)



植物ウイルスに感染し、変形した葉



不明植物 1



不明植物 2 (2020年7月3日)

3) 中国産ミスゴケ

豊橋市文化財センター職員が自宅でサギソウの球根を蒔き出した際に、100円ショップでプランターと共に購入したミスゴケが中国産のものでした。この中国産のミスゴケからは大小様々な10種類程の植物が発芽しました。いずれも現時点では種名は不明ですが、外来種の可能性が高いと考えています。

とりあえず証拠として残すために写真撮影し、開花を確認できたものは植物標本にし、開花しないものは成長が止まった時点で植物標本にして残すつもりです。



中国産ミスゴケ発芽状態(2020年8月10日)



イネ科メヒシバ属?



シソ科ニガクサ属?



不明植物1



マメ科植物?の葉先



マメ科植物?の根元



不明植物2



不明植物3（中央の細い葉、中央はサギソウの球根）



不明植物4（幅約1 cm、左上はサギソウの球根）



不明植物5（中央と左上）

2、植物検疫の盲点

現在、中国から正体不明の植物の種子が送られてくる事例が日本やアメリカで報告されています。これらの種子が蒔かれ、再生産された種子が拡散していけば、侵略的外来種として本来の自然に対して甚大な被害を及ぼす危険があります。

これまで、葦毛湿原のミズゴケに関しては葦毛通信 No. 14 に植生回復作業で除去して林縁部に仮置きした**ミズゴケから多くの湿生植物が発芽**したことを報告しました。ミズゴケの中に多くの植物の種子が含まれているのは葦毛湿原産だけではなく、どの国のミズゴケも同じ状況だと思われませんが、特に中国産のミズゴケから多くの植物が発芽しました。

植物検疫では土や種子に対する規制は行われていますが、園芸店で売られている**外国産乾燥ミスゴケ**に関しては**盲点**になっているのではないのでしょうか。ミシシッピアカミミガメのように園芸店で買った乾燥ミスゴケの処理に困って周りの環境に放置するようなことがあれば、侵略的外来種を拡散させることになりかねません。あるいは、知らない間にもうすでにこのような状況が進んでいるのかもしれない。

今回の事例は緊急性が高いと判断して結果がはっきりしないまま報告しました。今後、専門家による正確な調査が必要だと思います。**乾燥ミスゴケ**は土と同じように多くの植物の種子を含んでおり、**土壌シードバンクと同じもの**と考えるべきです。外国からミズゴケを輸入する際には、十分な調査と植物の種子を持ち込ませない規制が必要だと思います。